

2022年度 日本工学院専門学校											
デザイン科/プロダクトデザイン専攻											
デザイン論1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	伊藤 恒平			実務 経験	有	職種	プロダクトデザイナー				
担当教員紹介											
デザイン事務所でプロダクトデザイナーとして15年、代表取締役社長兼デザイナーとして5年の20年の実務経験を持つ。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、プロダクトデザイン理論の基礎を理解して、これから経験していく仕事の現場で、役に立つ知識と考え方を学び向上するようになる。プロダクトデザイン理論から「商品開発」に関連する知識を体系的に理解し、デザイン思考を活用できるよう、くらしと仕事のあらゆる場面で必要なデザインの知識を自発的に学び、考えることができるようになるのがねらいである。											
到達目標											
この科目では、初心者から学べるように、プロダクトデザインの基礎知識から、背景・社会・ビジネス・プロセスのカテゴリーからプロダクトを理解して、自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会で活動するために必要な知識力と理解力を具体的に修得すること、自分の理論の確立することができるようになることを目標にしている。											
授業方法											
この授業では、教科書の内容に沿って講師からの解説を受ける。内容によってリモートワークや参考資料を採り入れ、授業を進める。授業中の解説や参考資料から学びを深め、学生の「プロダクトデザインの知識」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「プロダクトデザイン理論」を自分自身の言葉で語り、思考できるようになることを目指す。											
成績評価方法											
レポート・課題	70%	レポート・課題を総合的に評価する									
ワーク・少課題	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
この授業では、初心者の段階の学生に理論の観点から、プロダクトデザインに触れてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。社会の動き、情報を収集し、業界の今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書：プロダクトデザインの基礎 授業にて必要な資料は配布を行う											
回数	授業計画										
第1回	前期のおさらいから、プロダクトデザインとは何かを知る										
第2回	ユーザー調査のための手法、ユーザー調査のための手法を把握する1										
第3回	ユーザー調査のための手法、ユーザー調査のための手法を把握する2										
第4回	ユーザー調査のための手法、ユーザー調査のための手法を把握する3										
第5回	コンセプト作成のための手法、コンセプト作成のための手法について理解する1										

2022年度 日本工学院専門学校	
デザイン科/プロダクトデザイン専攻	
デザイン論1	
第6回	コンセプト作成のための手法、コンセプト作成のための手法について理解する2
第7回	コンセプト作成のための手法、コンセプト作成のための手法について理解する3
第8回	コンセプト作成のための手法、コンセプト作成のための手法について理解する4
第9回	コンセプト作成のための手法、コンセプト作成のための手法について理解する5
第10回	視覚化のための手法、視覚化についての手法を理解する1
第11回	視覚化のための手法、視覚化についての手法を理解する2
第12回	視覚化のための手法、視覚化についての手法を理解する3
第13回	視覚化のための手法、視覚化についての手法を理解する4
第14回	デザインノート作成プロダクトデザインの基礎で必要とされる知識をまとめる
第15回	デザインノート提出、全体のまとめ